The Association of Japanese Geographers
4-9-6, Aobadai, Meguro-ku
Tokyo 153-8522 JAPAN
Phone: (03)6416-8683
e-mail: meguro@ajg-certi.jp

地域調査士通信　No.2　　2015.3

・巻頭のことば
　地域調査士のすすめ　　菊地 俊夫　・・・・・　1
・地域調査士・専門地域調査士関連データ紹介　・・・・・　3
・資格制度に関するニュース　・・・・・　3
・地域調査の現場（第２回）
　自然保護・自然環境保全と地域調査,
　　そして地理学の役割　　中井 達郎　・・・・・　4
・講習会新講師紹介　・・・・・　6
・資格専門委員会ウェブサイト紹介　・・・・・　6
・文献紹介　・・・・・　7
・委員紹介　・・・・・　8

巻頭のことば

地域調査士のすすめ

（公社）日本地理学会 理事長
菊地俊夫（首都大学東京・専門地域調査士）

地域調査士制度は2010年４月から始まり，今年で６年目をむかえる。この制度の目的は,以下の３点であった。第１は地理学の有用性をアピールし，社会貢献を果たすことであり，第 2 は地理学の基本的な素養の修得のため，大学における地理教育の標準化を図ることであった。第３は大学における地理学や地域調査に関連する科目の恒常的な開設と，それにともなう大学教育における地理学の発展であった。地域調査士制度の発足以来，地域調査士と専門地域調査士が多く輩出され，科目認定を受けた大学・大学院も増加する傾向にあり，地域調査士制度は成功しているようにみえる。しかし，地域調査士と専門地域調査士の申請件数をみると，目立って増加する傾向にあるわけでもない。そのことを踏まえながら，日本地理学会は地域調査士制度のさらなる発展の方策を考えなければならない。

地域調査士や専門地域調査士は何に役立つのか，それらの資格をもつことにより，就職が有利になるのかなどはよく聞く声である。しかし，さまざまな資格がそうであるように，資格そのものに切り札的な価値はなく，資格の価値はそれを活用する人によって高められるものである。例えば，車の免許は免許証そのものに価値はなく（身分証明書代わりになるかもしれないが），車を運転してはじめて，免許証の価値が発生する。そのため，免許証をただもっている人は，ペーパードライバーであり，車を上手く運転できるとは限らないし，車を使って直ち

に仕事ができるわけでもない。地域調査士や専門地域調査士の資格もただもっているだけでは価値は生みだされない。それらを活用して地域調査を行うことにより，資格の価値がはじめて生じてくる。つまり，実際に活用しなければ，地域調査士の知名度は上がらないし，地理学の社会貢献にもつながらない。

地域調査士の資格を活用するためには，地域調査やフィールドワークの際に，認定証を何らかの形でみせることが最初の一歩であろう（はじめは気恥ずかしいかもしれないが）。調査前に挨拶を交わすことが多いが，その際の名刺交換時に私は専門地域調士の認定証をみせることにしている。専門地域調査士に関して無反応な場合も少なくないが，10 人のうち２人程度は専門地域調査士とは何かと聞かれることがある。そして，地域調査士や専門地域調査士の話をすると，調査する方と調査される方の互いの緊張がほぐれ，調査が円滑に進む場合が多い。また，地域調査やフィールドワークの場で見逃しやすいことは，調査倫理である。私はフィールドワーカーの一人として，景観観察や土地利用・土地条件調査，あるいはアンケート調査や聞き取り調査などの地域調査を頻繁に行うが，調査倫理をあまり気にすることはなかった。調査によって人に迷惑をかけることはないと，あたりまえのように考えていた。しかし，地域調査士や専門地域調査士の講習を受講し，調査倫理を学ぶことにより，調査ではさまざまな形で他人や地域社会に迷惑をかける可能性があることを知った。その意味でも，地域調査士や専門地域調査士の資格は適正に調査できる人間であることを担保するものとなっている。

地域調査士と専門地域調査士の資格は地理学の専門的な素養をベースとするものであり，そのことが１つの大きな特徴にもなっている。地理学の専門的な素養は私たちが考えているほど軟いものではない。私は東京都とその区部・市部，あるいは島嶼部の観光まちづくりや地域づくりの仕事に携わることがあり，その基本的な資料を得るため，他分野のプロジェクトメンバーとともに地域調査を行い，収集した資料を分析することがある。その際，地理学の総合性を評価する声をよく耳にする。まちづくりや地域づくりのメンバーは都市計画や建築学，あるいは経済学・経営学や歴史学などの研究者が多く，それぞれの専門分野では高い見識をもっているが，自然や社会・経済，歴史・文化などを総合的に評価して地域をどのように振興させ活性化させるにかの議論になると，なかなか良いアイディアを出すことができない。そのような場合，地理学の専門的な素養をもつ者が地域を総合的に展望することで，地域づくりの良いアイディアを示すことはよくあることである。その意味で，地域づくりやまちづくりの現場では，地理学のアピールする余地が大いにあると思われるし，地理学の素養をベースにした地域調査士や専門地域調査士の活躍の場にもなるだろう。

地理学がそうであるように，地域調査士や専門地域調査士の資格は活躍の場を積極的に開拓していく必要がある。地域調査やフィールドワークは地理学の専売特許ではないが，地理学が地域調査やフィールドワークの模範となる姿勢を示さなければならない。そのためにも，地理学の専門的な素養をベースにした地域調査士や専門地域調査士を育てていく必要がある。地域調査士や専門地域調査士を育てるためには，育てる畑としての教育の場や活動の場を充実させなければならない。教育の場と活躍の場が両輪となって，地域調査士や専門調査士は現在よりもさらに前に進むことができる。換言すれば，地域調査士と専門地域調査士の教育の場と活躍の場を広げていかなければ，地理学が拡大し社会貢献することにならない。地域調査士の資格を取得できる学部・学科は，資格専門委員会の努力もあり，多くなっており，地理学科以外の学科やコース（例えば，観光関連の学科やコース）にも及んでいる。今後も資格専門委員会の尽力で，教育の場は充実し拡大するだろう。課題は活躍の場の充実と拡大である。日本地理学会としても地域調査士や専門地域調査士の活躍の場を引き続き求めていく努力を続け，地理学を勉強する人たちに自信をもって地域調査士と専門地域調査を勧められるようにしたい。朗報になるかどうかわからないが，日本各地のジオパークのいくつかは地域づくりや地域資源の掘り起こしのための専門職員を募集している。そのような募集に積極的に応じることも，地域調査士の活躍の場を拡大することにつながるかもしれない。

-

■地域調査士・専門地域調査士関連データ紹介■

◆地域調査士・専門地域調査士　年度別資格取得者数の推移

	地域調査士	専門地域調査士
2010 年度	–	46
2011 年度	1	25
2012 年度	35	14
2013 年度	38	14
2014 年度	84(※)	6
合　計	158	105

単位：人　　(2015 年 3 月 14 日現在)

2014 年度は，84 名の地域調査士，6 名の専門地域調査士資格取得者がおり，ともにこれまで 100 名を超える人材が輩出されています。

（※地域調査士 84 名のうち 52 名は, 以下に述べる申請前部分申請利用者のため, 2015 年 3 月 14 日現在, 資格取得見込の状況です）

◆認定校ついて（お詫び）

地域調査士通信 1 号 7 頁目の「認定校一覧②専門地域調査士（大学院）」について，一部表記に誤りがありましたのでご修正ください。

（誤）立命館大学大学院 文学研究科 人文学専攻地理学専修

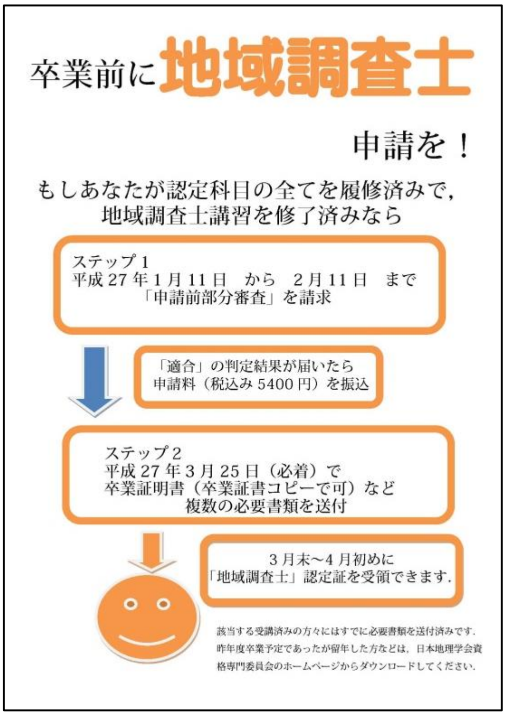
（正）立命館大学大学院 文学研究科 行動文化情報学専攻地理学専修

-

News

✧　大学 4 年生に向けて，申請前部分審査制度を開始しました！

2014 年度より，今年度卒業予定者のうち認定済み科目を全て履修済みで講習会修了者向けに，卒業前の部分審査制度（卒業前申請）を開始しました。従来の申請には卒業証明書の提出が条件となっており，卒業前に認定申請をおこなうことができませんでした。そのため，これまでの申請制度下では講習会修了者のうち，実際に卒業後に申請をおこなう学生は 20%程度に留まってしまうという現状がありました。この問題を解決するため，2014 年度より大学を卒業する前に地域調査士の申請を可能とするよう新制度を設けました。申請条件（2014 年度）は，①2015 年（平成 27 年）３月卒業見込み，②地域調査士講習会を受講済み，③認定科目 a～f を全て履修済みの三つ全てに当てはまる方が対象となります。この制度では，卒業証明書が発行される前の段階で審査を進めておくため，３月末～４月初めまでに地域調査士認定証と地域調査士手帳の受領が可能となります。各大学には左図のようなポスターをお送りし，申請資格をもつ大学生には申請書を同封し郵送にて周知をおこないました。その結果，今年度は従来の申請率を超える 28% (52 件) の申請が届きました。この制度により多くの地域調査士資格取得者が生まれることが期待されます。なお，事前申請を希望しない方は，従来の申請（４月以降いつでも申請可能）による方法となります。新しい制度は次年度以降も継続していきますので，多くの大学生にご活用頂きたく，大学機関にご所属の先生方にはご周知の程お願い申し上げます。



認定校向けの掲示ポスター

地域調査の現場（第２回）

自然保護・自然環境保全と地域調査，そして地理学の役割

中井　達郎（ (公財)日本自然保護協会参与。国士舘大学，立教大学などで非常勤講師を担当。専門地域調査士）

私は地理学をバックグラウンドにして自然保護の仕事に長年かかわってきた。私が勤めていた(公財)日本自然保護協会は，全国各地で自然保護問題を抱えている方々からの協力要請によって，活動をしてきた。その内容は，地元の方々への科学的側面あるいは運動的側面でのアドバイスであったり，広く社会全体と問題所在や問題解決の必要性を共有するための活動であったり，はたまた国や都道府県などの政策決定者への意見具申や提言であったり，社会のしくみにも関わる。私自身，石垣島白保サンゴ礁での空港建設問題，長良川河口堰建設問題，北海道千歳川放水路計画，小笠原空港建設問題などの活動を行ってきた。これらの活動の基本となるのが，対象となる地域の調査である。活動を展開するためには，守るべき自然の姿，保全すべき地域の特性とその価値を的確に把握しなければならないからである。

このような自然保護活動では，地理学をバックグラウンドとする地域調査が非常に有効だと考える。その理由を列記したい。

まず１番目は，地理学は対象となる地域自然の特性を総合的な視点から明らかにする上で有効である。世の中一般には自然保護というと生物の世界の問題として限定的に理解されているように感じる。実際に問題に関わっている人々は生物関係の研究者であったり，愛好者であったりする場合が多い。しかし，ある特定の生物を守るにしても，その生息環境の特性を把握は不可欠であるし，本来の目的は，特定の生物を守るだけでなく，地域の自然システム全体を保全することである。別の言葉で言うと地域生態系の保全である。生態系は生物群集だけでは成立しない。生物群集とそれを取り巻くさまざまな物理環境との関係によって地域の自然システムとして，生態系は成立しているのである。

私は，(公財)日本自然保護協会に勤めてしばらくして，白保サンゴ礁での空港建設問題に関わるようになった。この問題では，サンゴ礁上での建設が計画された空港によって，サンゴ礁の豊かな自然とその恵みを受けている地域の人々の暮らしにも大きな影響が出ることが懸念された。当時は，アオサンゴと呼ばれる造礁サンゴの存在が非常にユニークなものと評価され，その生物の保護を中心に活動が展開されていた。それに対して，事業主体側はアオサンゴの生息地を避ける計画変更を行い，問題をクリアしようとしてきた。実は私はサンゴ礁地形が専門でもあり，サンゴ礁での地形ー海水・堆積物の動きー生物群集との関係を調べてきた。その目から見ると，計画を変更してもアオサンゴへの悪影響は明らかであった。それは生物群集だけを見ていたのではわからない。地形や海水流動のパターン，堆積物移動のパターンなどを合わせて調べることによって明らかになったのである（中井，2005）。さまざまな切り口から”場”の特性を把握する。それは地理学の得意とするところであり，その視点と方法論は，白保サンゴ礁のみならず，さまざまな自然保護の現場で有効であった。

地理学をバックグラウンドとする地域調査の有効性の２番目は，地理学が人と自然の関わりを対象とする点である。自然保護も，まさに人と自然の関わり方の問題なのである。人は自然を利用することによって生存し，社会を形作ってきた。自然はその人の行動を許容し，恵みを与えてきた。それは現代も変わらない。しかし，人の自然利用がある許容範囲を超えると自然の破壊が起こり，それが翻って人に悪影響を及ぼす。すなわち人と自然との間のバランスの崩壊である。その自然を保護・保全しようとするとき，地域における人と自然の関わりについても把握しておく必要がある。白保サンゴ礁問題では私以外にも多くの地理学者がかかわった。その中で伝統的なサンゴ礁の自然利用に関する研究も大きな役割を果たした。健全なサンゴ礁から白保集落の人々は多くの恵みを得てきた。その恵みを守りたい。それは地元の人々がこの活動を始めた動機である。白保集落の人々とサン

ゴ礁という自然のかかわりを明らかにし，記載する。それは，サンゴ礁の価値を埋め立てに適した平らな浅場と価値づけるのとは全く異なる価値付けが示すことである。伝統的な人と自然のかかわりの中に，埋め立てという不可逆的な利用ではない持続可能なサンゴ礁利用，そしてそれを基本とした地域づくりのヒントが含まれているのではないか。近年の，自然保護活動では，「持続可能な自然利用を基本とした地域づくり」とでも言うような課題が各地で進められている。私がかかわってきた中では，小笠原諸島のエコツーリズムを核にした地域づくりや群馬県みなかみ町の「赤谷プロジェクト」などである。地域社会全体として，その地域の自然を守りつつ，その資源を持続的に利用する社会を作っていく。このような場面では，自然地理学と人文地理学の両側面を持つ地理学とそれをバックグラウンドとする地域調査は欠かせない。

３番目は，さまざまな分野の研究者をとりまとめるコーディネーターあるいはシナリオライターとしての有効性である。地理学が広く様々な視点から調査し考察できるとしたが，もちろん議論を深めて行くには限界がある。私が長良川河口堰問題に取り組んだ時，魚類，底生生物，プランクトン，植生，水質，沿岸物理，河川工学，地域運動などさまざまな分野の専門家からなる委員会を立ち上げ，事務方をつとめた。自然保護活動を目的とする委員会なので，委員会として社会に働きかける内容にまとめ上げる必要がある。いくつもの報告書とそれに基づく意見をまとめ，政策決定者やマスメディアを通じて広く社会に働きかけを行った。そしてその基礎としてもさまざまな地域調査を実施した。これらのコーディネートとシナリオづくりに貢献できたのも地理学の持つ力だと感じている。

４番目は，地図の活用である。地図と言ってもGISなどの活用とは少し違う。地図をベースにした模式的な図が以外に有効だと感じている。それは何を訴えたいかそのためにどんな情報を入れ込むか。そこがこの手の図の肝である。そのような図を作成するためには前述した３つのポイントとも関連をする。それは地域を読む力とでもいうべきか。そしてそれは地図という道具を使って表現することである。私は前述の白保サンゴ礁問題で地形ー海水・堆積物の動きー生物分布に関する環境図（図 1）を作成した。そしてメディアを含めた関係者から好評を得，白保サンゴ礁保護に対する社会的理解が深まったと感じている。詳しくは中井（2005）を参照されたい。ちなみに空港のサンゴ礁上での建設は中止された。

では，以上のような地理学をバックグラウンドとする地域調査がもつ有効性をいかに高めるか。地理学をバックグランドとするフィールド・ワーカーを育て，社会で活躍する場を作るかである。私のようなリタイヤが近い専門地域調査士は，このようなことをいかに後輩たちにそして世の中一般に伝えていくかが役割であろう。

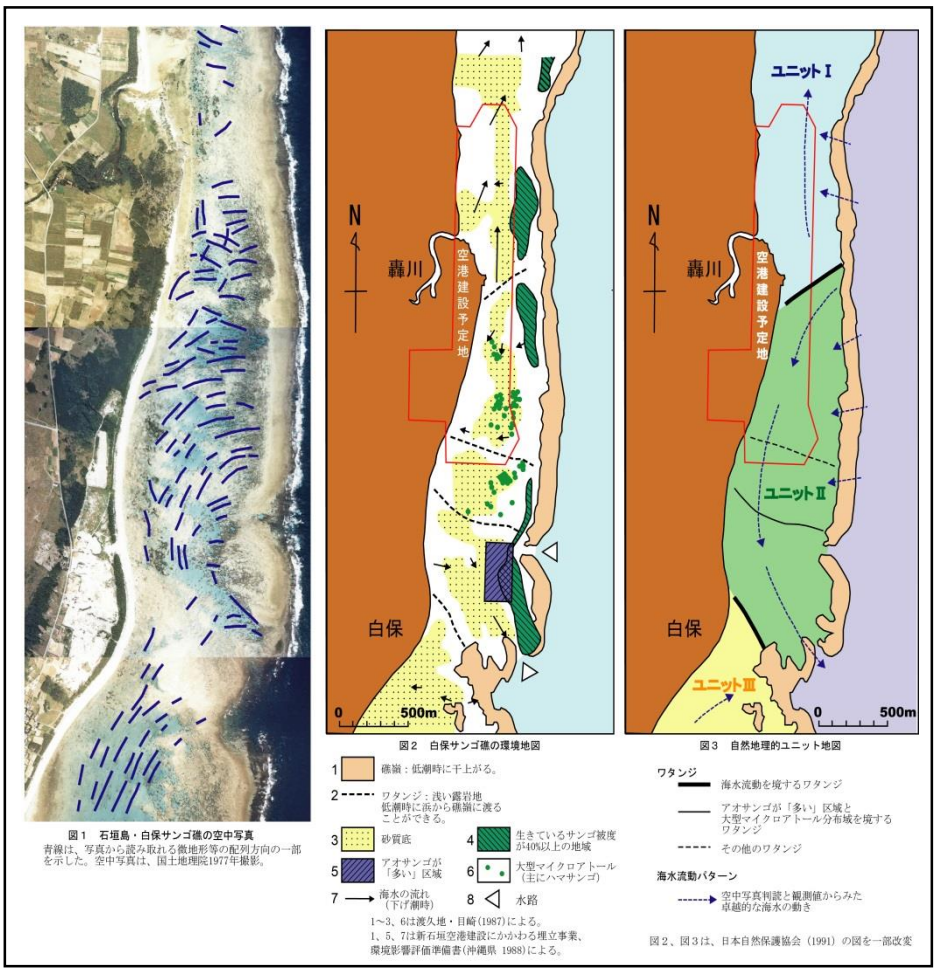


図１　白保サンゴ礁問題において作成した地形ー海水・堆積物の動きー生物分布に関する環境図

引用文献

中井達郎（2005）：空港建設地をかえた地図．中村和郎編『地図からの発想』，古今書院，110-111.

地域調査士講習会の新講師紹介

資格専門委員会では，年間４回（内１回は，関西会場）の地域調査士・専門地域調査士講習会を開催し，①法令，②個人情報，③人権の各領域の内容を，講師の先生に講じていただいています。2015 年度の関東での講習会より，③人権の講義において新しい講師の先生をお迎えすることとなり，本通信に自己紹介の一文を寄せていただきました。

◎宮地　忠明氏：地域調査士講習会（関東地区・人権担当）　公益財団法人国際理解支援協会

私は，東京都立高校の社会科（地理）教員から東京都教育委員会の教育行政に身を置く中で，同和教育，在日外国人の児童生徒にかかわる教育，男女平等教育，いじめ問題など人権教育に取り組みました。教員の時，授業で人権にかかわる内容を扱いましたが，知識伝達の域でした。それに気付いたのは，1989 年に都内の中学校の夜間学級で，齢を召した生徒が「あいうえお」や「足し算，引き算」などを真剣に学習している姿に接した時でした。私は，夜間学級生の現実から憲法に保障されている人権と現実との乖離を真剣に問う必要があると考えるようになりました。差別問題に直面する生徒と接し，人権運動団体の関係者と話し合う中で，私自身の人権意識が啓発されました。その後学校経営を行う立場となった時にも，諸事象を人権の視点から考え行動しました。「人権の世紀」と言われる 21 世紀，地域調査士講習会において人権文化の形成に向けた課題を示したいと思います。

-

資格専門委員会のウェブサイト紹介

資格専門委員会のウェブサイトでは，地域調査士・GIS 学術士に関する申請制度の説明や資格に関する最新のニュース（お知らせ），資格取得者一覧，各種申請書様式，規程等，様々な情報を公開しております。科目認定校ごとの認定科目（修得すべき科目の一覧）のページについては，地域調査士認定委員会後１か月以内に開催される理事会で審議されたのち，すぐに新しい情報に更新できるよう努めております。ページ内には，●月●日更新，という情報を挿入するようにしましたので，最新の情報を確認できるようにしてあります。この『地域調査士通信』も発行後半年をもってウェブサイトにアップいたします。また，資格制度の周知をはじめ，将来的に（専門）地域調査士資格を取得したい方，科目認定校となっている大学の先生方などの幅広いご質問・ご要望にお応えできるよう，内容を作成しております。記載してほしい情報等，ご要望がありましたら，本８ページに記載してある問い合わせ先までご連絡ください。いただきましたご要望は，月に１回程度開催される資格専門委員会にて検討させていただきます。本ウェブサイトをよりよいものに更新していきますので，ぜひご活用ください。

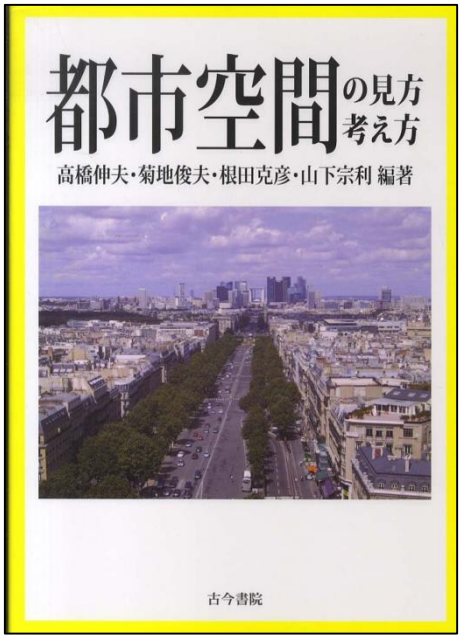
（事務局・竹澤史也・地域調査士）

ウェブサイト URL：http://ajg-certi.jp/

文献紹介

ここでは，２冊の本を紹介させていただく。いずれもフィールドワークをはじめとする地域調査を視野に入れたものである。

まず『都市空間の見方・考え方』は，多様な側面を持つ都市を調査研究するための手引書である。内容は，第Ⅰ部「都市空間の調査研究法」（１～５章）と第Ⅱ部「都市空間の調査研究―実践編」（６～17 章）で構成されている。

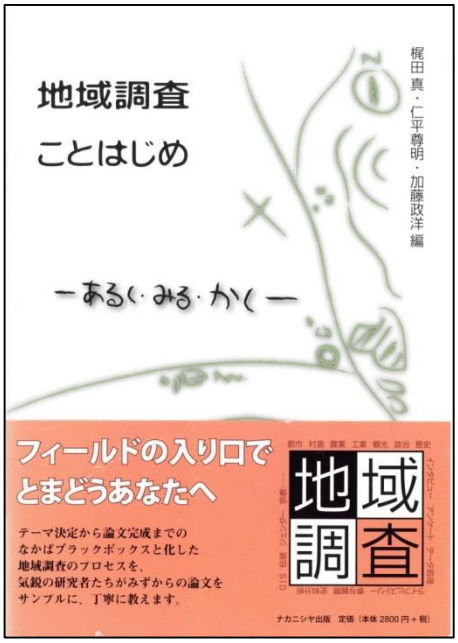


高橋伸夫・菊地俊夫・根田克彦・山下宗利　編著
『都市空間の見方・考え方』
古今書院，2013 年，3,500 円（税抜）
ISBN：9784772252690

第Ⅰ部では，都市を調査研究するための具体的な手順が示される。１章では，都市の一般的説明や，地理学がどのように都市にアプローチしてきたのかが説明され，都市を学ぼうとする人々が第一歩を踏み出しやすいように配慮されている。２～５章では，データの収集，地図化の方法，土地利用，景観，都市の見方，都市の定義と注意点など，調査研究に必要な基本事項が網羅されている。しかも，図表が豊富で，各調査が，図表や分析にいかにして結びついていくのかを理解しやすい。第Ⅱ部では，第Ⅰ部を踏まえ，調査研究の成果が紹介される。12 章に及ぶ具体例が掲載されているので，一般的に考えられる主要テーマの多くはカバーされている。実践編というスタンスゆえに，第Ⅰ部のように調査研究の具体的な手順についての記述は少ないが，本書の最後に初出一覧（原著論文のリスト）が掲載されているので，そこから各章の調査研究の具体的な姿を知ることが可能である。

都市を対象としたものであるが，そこで示される調査研究法の多くは，都市以外の領域にも適用可能なものであり，地域調査を志す人々には是非読んでいただきたい。

一方，実際に地域調査にとりかかろうとする場合，必ずしも手引書どおりにはいかないこともある。テーマを決める前段階，調査の事前準備の仕方，調査で予期せぬ事態に遭遇した場合の対処法などはその典型であろう。こうした点について，研究者の経験が豊富に取り込まれたのが『地域調査ことはじめ―あるく・みる・かく』である。第１部「分野別の地域調査」（全７章），第２部「地域調査の諸手法」（全７章），第３部「文化・社会の地域調査」（全８章）から構成されている。



梶田真・仁平尊明・加藤政洋編
『地域調査ことはじめ―あるく・みる・かく』
ナカニシヤ出版，2007 年，2,800 円（税抜）
ISBN：9784779501326

本書の興味深い点は，執筆した先生方の学生時代の経験が書かれていることである。しかも，論文完成に至るまでの試行錯誤や失敗談も豊富に詰め込まれている。完成した学術論文には，こうした情報は一切掲載されないが，地域調査を始める人々が最も知りたいことは，実はこうした点ではないだろうか。また，今や自立した研究者の方々も，さまざまな苦労を経て論文を書き上げてきたのだということが分かり，現に卒業論文などを書いている学生の皆さんからすれば，本書を読むことである種の「安心感」が得られるのではないだろうか。

本書の各章には，取り上げた学術論文名が示されている。本書を読んだ後，該当する学術論文を入手して読めば，よりいっそう地域調査について理解が深まるであろう。（稲垣 稜・奈良大学）

2014～2015 年度委員紹介

2014 年 10 月より関西在住の委員が新たに加わり，スカイプ会議も用いながら委員間の活発な意見交換を進めております。資格制度および本委員会についてご意見等お寄せ頂けますと幸いです。

資格専門委員会

委員長

長谷川 均
(国士舘大文学部)

副委員長

高岡 貞夫
(専修大文学部)

副委員長

森本 健弘
(筑波大生命環境系)

委員

伊東 理
(関西大文学部)

委員

稲垣 稜
(奈良大文学部)

委員

江口 誠一
(日本大文理学部)

委員

古賀 慎二
(立命館大文学部)

委員

小原 丈明
(法政大文学部)

委員

鈴木 厚志
(立正大地球環境科学部)

委員

高田 明典
(日本地図センター)

委員

田中 圭
(日本地図センター)

委員

田中 靖
(駒沢大文学部)

委員

野々村 邦夫
(日本地図センター)

委員

星野 利彦
(内閣府)

委員

三橋 浩志
(文部科学省)

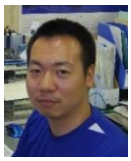
委員

宮地 忠幸
(国士舘大文学部)

委員

羽田 麻美
(日本大文理学部)

事務局



竹澤 史也

資格制度についてご質問・ご意見等ありましたら，お気軽にお声掛け下さい！

地域調査士認定委員会

委員長 田林 明(筑波大名誉教授)，金田 章裕(京都大名誉教授)，小泉武栄(東京学芸大名誉教授)，
戸所 隆(高崎経済大名誉教授)，星埜 由尚(日本測量協会)

〔お問い合わせ先〕 公益社団法人 日本地理学会 資格専門委員会（目黒分室：資格制度事務局）
〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6 日本地図センタービル内（2014 年度：月・木曜開室）
電話・ファックス 03-6416-8683 E-mail meguro@ajg-certi.jp

【編集後記】

本年度より資格専門委員会の一員となり，微力ながら通信編集の役目を仰せつかりました。地域調査士制度の実態についてほとんど無知に等しい状態から始まりましたが，編集作業を通じて本制度のもつ重要性や，これまで携わられてきた方々のご尽力を痛切に感じ，私自身の地域調査士に対する思いにも大きな変化があらわれました。通信をきっかけに，地域調査士の皆様とも接点を持つことが出来れば幸いです。

最後になりましたが，今回突然の依頼にも関わらず原稿執筆にご快諾頂いた皆様に，心より御礼申し上げます。(第 2 号編集担当・羽田麻美)

公益社団法人 日本地理学会 「地域調査士通信」第 2 号
発行日：2015 年 3 月 25 日
編集・発行：公益社団法人 日本地理学会 資格専門委員会
印 刷：一般財団法人日本地図センター
住 所：〒153-8522 東京都目黒区青葉台 4-9-6
電話番号：03-6416-8683